

桂田静枝・芳枝姉妹の旧蔵資料を大学文書館で受贈

大学文書館では、5月10日（水）及び5月30日（火）に、桂田静枝（第六臨時教員養成所1923年修了、元小樽高等女学校教諭・北海道青年師範学校教官・北海道教育大学教授）・桂田芳枝（北海道帝国大学理学部数学科1942年卒業、元本学理学部教授）姉妹と桂田家ゆかりの資料7箱を、廣中幸子様からご寄贈いただきました。静枝・芳枝姉妹は、廣中様の大伯母・大叔母にあたります。

桂田芳枝（1911-1980）は、小樽高等女学校を1928（昭和3）年に卒業後、数学研究を志し、東京物理学校（1931～1934年）・東京女子大学数学専攻部（1938～1940年）を経て、北海道帝国大学理学部数学科に1940年4月入学、幾何学教室の河口商次教授に師事しました。1942年9月理学部を卒業後は、助手（1942年～）として籍をおき、1950年7月に理学博士号（旧制）を取得しました。同年11月助教授に昇任し、1956～1970年にかけて、イタリア並びにスイスの国立高等数学研究所やカリフォルニア大学から招聘をうけ、海外研究の出張を重ねました。1967年10月

～1975年4月には教授として幾何学教室を主宰しました。桂田芳枝は、日本において数学分野の理学博士号を女性で最初に取得した人物であり、本学における最初の女性の教授です。

今回受贈した資料群のうち、桂田芳枝にまつわる資料は、(1) 研究資料・原稿類（研究ノート、手稿「affine geometry」など）、(2) 写真類、(3) 書簡・電報類、(4) 物品資料（愛用のカメラ、海外出張時の鞆、「桂田教授室」の表札、勲章など）、(5) 書類・証書類（理学部数学科入学許可書、履歴書、名刺、名誉教授の証、勲三等瑞宝章の位記、北海道文化賞の賞状など）、(6) 美術品（元理学部教授の池田芳郎による油彩画5点）など、多岐にわたります。

一方、桂田静枝（1903-1984）にまつわる資料は、(1) 研究資料（研究ノート「衣服及被服材料」ほか）、(2) 写真類、(3) 書簡（静枝宛て芳枝書簡を含む）、(4) 証書類（勲三等瑞宝章の位記ほか）、(5) 物品資料（勲章、桂田ウノ〔姉妹の母〕の回顧談の録音オープンリールテープ）、(6) 印刷物（桂

田芳枝を取り上げた新聞記事の切り抜きや刊行物）などです。今後、受贈資料は大学文書館沿革資料室において大切に保管し、整理・目録作成を進めていきます。

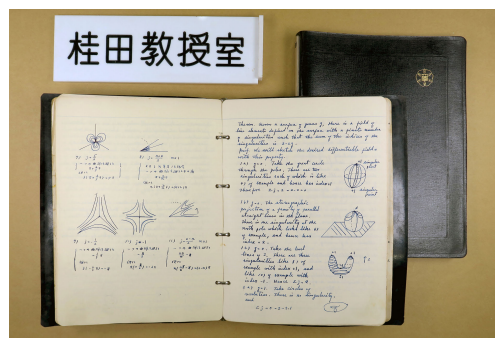
大学文書館では、2005（平成17）年開館当初より、戦前期に本学で学び、研究した女性たちの姿を追いかけてきました。これまで、調査研究の成果は『大学文書館年報』で公表し、資料見学会や企画展示「アンビシャス！理系女子——女性の北大生誕生100年」（会期2018年9月～2019年7月）、「北大における女性自学から男女共学へ——新制大学70年」（会期2019年8月～2021年4月、2022年4月～8月）を開催しています。

今回ご寄贈いただいた豊富な資料を中心として、本学における先駆的な女性研究者をテーマにした特別展示を、次年度、大学文書館1階の沿革展示室において、開催いたします。

（大学文書館）



桂田芳枝・ウノ・静枝（1920年代）



桂田芳枝の研究ノートと教授室の表札